

体験型海外教育実地研究 第8学年 異文化理解

「Let's make your original "HANKO" !」

教育学研究科 学習科学専攻 カリキュラム開発専修 横山 愛

1 はじめに

私が、体験型海外実地研究に参加した理由は、異文化と海外の教育に興味があったからである。小学校外国語活動が本格的に導入された中、外国語活動では異文化理解や多様なものの見方考え方への気付きが重要視されている。教員自身がそのような体験をしておくことで説得力ある指導ができると考えた。体験型海外実地研究での貴重な体験を将来発信していきたいと考え、参加することを決めた。

2 実地研究の日程と概要

月日	曜	交通等	訪問地・用務等	宿泊地	
4/24	水	渡航までの日程, パスポート, ESTA, 授業研究テーマ事例,			部屋割り
5/15	水	授業研究テーマ案の交流・テーマの設定			
6/6	木	学習指導案の検討			
6/11	火	学習指導案の検討			
6/24	月	学習指導案(英語版)の検討			
7/1	月	学習指導案(英語版)の検討			
7/6	土	第9回学校間交流国際フォーラム			
7/7	日	ワークショップ: 学習指導案および教材・教具の検討			
7/22	月	保険説明 (学習指導案の検討, 指導案の提出について)			
7/23	火	保険説明 (学習指導案の検討, 指導案の提出について)			
8/26	月	準備状況確認, 報告書・教材集・発表会について, 渡航準備・関係書類提出			
9/9	月	最終事前打ち合わせ (準備状況, 準備物・集合時刻等の確認)			
9/14	土	広島ー成田 0755-0935 (NH-3236) 成田ーワシントン ダラス 1105-1040 (NH-2) ワシントン ダラスーローリー 1220-1329 (UA-4880) 空港 - (ウォーレン先生・ECU バス) →City Hotel & Bistro		アメリカ・ノースカロライナ州 City Hotel & Bistro 203 W. Greenville Blvd, Greenville, NC 27834 TEL(877)2712616 Greenville	
9/15	日	(ウォーレン先生・バス)	ミーティング, ホテルにて教材作り 各学校の先生方と事前打ち合わせ レセプションパーティ	Greenville 同上	
9/16	月	City Hotel → C.M.Eppes 中学校へ (ウォーレン先生・バス)	学校訪問 (C.M.Eppes 中学校) 副校長先生による学校の概要の説明 授業実践 授業見学, 校内見学 ECU 見学 ECU で夕食会	Greenville 同上	

9/17	火	City Hotel → C.M.Eppes 中 学校へ (ウォーレン先 生・バス)	学校訪問 (C.M.Eppes 中学校) 授業見学, 校内見学 各学校の先生方と交流	Greenville 同上
9/18	水	City Hotel → ECU (ウォーレン先 生・ECUバス) ECU → ローリー (ECUバス)	午前 ECU の講義に参加 午後 ローリーへ移動 自然史博物館を見学する。	ノースカロライナ 州 Clarion Hotel State Capital 320 Hillsborough Street Raleigh, NC 27603 TEL(919)8320501 Raleigh
9/19	木	徒歩で, Exploris M.S.へ	学校訪問(Exploris M.S.) 午後 ローリー市内見学 歴史博物館, キッズミュージアムを見 学する。	Raleigh (同上)
9/20	金	ローリーーワシン トン ダラス 1021-1134 (UA-4887) (空港ーホテル間 はタクシー)	ワシントンへ移動 アメリカ文化体験	Washington Plaza 10 Thomas Circle, Northwest, Washington,DC 20005-4176 TEL (202)8421300 Washington, DC
9/21	土	徒歩	アメリカ文化体験・Book Fair 国立スミソニアン博物館の国立航空 宇宙博物館, 国立自然史博物館, ナシ ョナル・ギャラリー・オブアートを見 学する。	Washington DC(同 上)
9/22	日	ワシントンダラスー成田 1220-1525 (NH-1)		
9/23	月	成田ー広島 1740-1915 (NH-3237)		

3 実地研究授業

3.1 単元名 第8学年 異文化理解「Let's make your original "HANKO"！」

3.2 事前準備

① 単元設定の理由

日本では判子を押すという場面はよく見られることだが、アメリカにはない文化である。そのためアメリカでは珍しい判子を紹介し、実際に作ってみることで少しでも日本の文化に触れることができるのではないかと考えた。また、判子の代わりにアメリカではサインが使われている。日本の文化に触れることで改めて自国の文化やサインの役割などにも目を向けることができると考え、本単元を設定した。

② 準備したこと

本授業では実際に自分達のオリジナルの判子を作ることを活動の1つとしている。活動をスムーズに行うため、私も自分でデザインを考えオリジナルの判子を作っていた。またその作り方の説明も言葉だけでは不十分だと感じ、一工程ごとに写真を撮り、その写真を使って説明ができるように準備した。そして判子というアメリカではなじみのないものを紹介するために、できるだけ伝わるように判子が使われる場面を視覚的に示すという準備も行った。

教材としては、アメリカには油性ペンがないと予め聞いていたので、人数分の油性ペンや人数分に小さく切った発砲トレイ、朱肉なども用意した。

3.3 学習指導案

Lesson Title : Let's make your original "HANKO"!

Lesson Author : Yokoyama Ai

Date : September 16th, 2013

Grade Level : 8th grade

Subject : Culture

Description : In this class, students will learn about Japanese "HANKO" and make their original "HANKO". Students will realize people sign one's name instead of using a "HANKO" in America.

Objectives : As a result of this activity, it will be possible for children to

1. Learn about Japanese culture of "HANKO" through understanding the role of "HANKO".
2. Realize the role of signature and "HANKO".

Materials, Resources and technology: "HANKO", foam trays, some pictures of "HANKO", markers

Teaching process :

Activity	Teacher's activity	Materials
1 Learn about the role of the "HANKO".	1 Show a "HANKO" and explain the role of it while showing some pictures. It is used when people want to prove something. • I have checked. • I have received. • I have contracted. • I have attended. • I have written. • I have drawn. • I have bought.	• "HANKO" • Some pictures of a "HANKO".

<p>2 Think the role of the signature.</p> <p>3 Make the original “HANKO”.</p> <p>5 Share each student an original “HANKO” with their friends and the teacher.</p>	<p>• I prove that I am the person. →You prove yourself.</p> <p>2 Ask a question. (What do you do in America instead of using a “HANKO”?)</p> <p>3 Show the way to make an original “HANKO” with foam tray. Let them make your original “HANKO”. Tell children to make their original “HANKO” of a different version when they finish early.</p> <ul style="list-style-type: none"> • full name • nickname <p>5 Tell children to share with as many friends as possible.</p>	<ul style="list-style-type: none"> • A sample of the original “HANKO” with foam tray. • Some permanent markers and foam trays. • ”HANKO” sheet (worksheet)
---	---	---

3.4 授業の実際

アメリカに出発する何日か前に、岡田さんの書道の授業とつなげて行うために、岡田さんと T.T で授業時間が二人で 70 分だということがわかった。そのため急遽、授業の内容で省略できるところは省略し、岡田さんの授業のときに書道で書いたものに判子を押すために、説明よりも作る活動をメインにするということにした。実際の授業では、まず簡単に自己紹介とあいさつをし、パワーポイントをつかいながら判子の役割について説明した。初めはパワーポイントが上手く起動できず、口頭だけの説明になり私自身も焦ってしまっていて、子どもも難しそうな顔をしていた。しかし、その後私の説明を聞いた担任の先生が説明してくださったり、パワーポイントが起動できてから写真を見たりしながら段々理解していき、興味を持っているようだった。次に、判子の作り方の説明をし、作るために必要な材料を配布した。それぞれが好きなデザインを紙に書き、それを発砲トレーに写し、油性ペンでなぞり、朱肉につけて押し、自分の作ったオリジナルの判子を子ども同士で見せ合っていた。自分のイニシャルを書く子どもも多く、アメリカならではのオリジナルの判子であると感じた。時間が来たので岡田さんと交代し、補助に回った。本来ならば岡田さんの時間で書いた書道に、作ったオリジナルの判子を押すという計画だったが、時間的余裕がなく完成させることができなかった。しかし次の日に、書道の作品に私と岡田さんの判子を押したものをプレゼントした。

3.5 考察

本授業で得られた成果は以下の 3 点である。

まず、子ども達にとっては珍しいと思われる判子について紹介することができ、判子に対し

て興味・関心を持ってもらえたと思う。判子作りは楽しんでいる様子が観察でき、「ハンコ」と片言ながらも言ってくれる子どもも何人かいた。

次に子ども達が工夫を凝らしたデザインをしていたことである。例えばスタンプラリーのようなものの判子では電車の絵が入った判子や、教員が使う判子ではかわいらしいキャラクターが入った判子が使われていることを紹介した。そのことが影響したのか、自分の好きなマークやキャラクターと自分の名前を上手く組み合わせたデザインを考えている子が多かった。

そして子どもとのコミュニケーションをとることができたことは大きな成果であったと思う。岡田さんと T.T だったため、配布する時間が短縮できたり、活動のときは子どもの様子を見に行くことができた。多くの子ども達は自分の作った判子を嬉しそうに見せてくれたので、たくさんほめたり、話を聞いたりすることができたと思う。

次に本授業での反省点である。反省点は以下の3点である。

まず、パワーポイントが上手く起動しなかったことや緊張していたこともあって、初めの方の説明がうまくいかなかったことである。パワーポイントが起動しないことは予め想定でき、代わりに紙での資料も用意していたが、練習が足りなかったことが反省点である。また英語での細案は予め用意していたが、緊張していても自然に話せるくらい読み込むべきであったと思う。

次に判子の役割についてもっと広げられなかったことである。急遽時間を削り、説明を短くしたことによって判子の役割についてはあまり広げられることができなかった。判子を一方的に紹介するよりも、サインと比較しながら説明し、判子やサインの役割について考えさせる授業展開を行う必要があったように思う。

最後に、作品として完成させられなかったことである。本単元では自分の書いた書道であると証明するために、自分の作った判子を押し完成することを目的としていた。しかし、時間がなくなってしまい、この目的を達成することができなかった。他言語を使う上に初めて出会う子に、なじみのないものを紹介する授業は、時間がかかなり必要である。しかし、質問に答えたり、子どもの反応を見てさらに説明を加えたりしていたため、思った以上に時間がかかってしまった。適切な時間配分を意識しながら授業をすることができなかったことは大きな反省点である。

4 体験型教育実地研究における自己変容

4.1 教育観の変容

学校の制度で一番興味深かったことは、例えば教師の荷物を運んであげるなど、生徒が何か良い事をしたときに、ポイントを与えそのポイントをためると果物などの賞品と交換できるという制度のことである。これは日本には中々見られない面白い制度だと思った。子どものやる気を促すためには、色々なやり方があり、制度を作って学校全体で意識させることは素晴らしいことだと感じた。

また、教師と子どもの距離がとても近いと感じた。例えば教師と子どもが廊下ですれ違ったときに、あいさつをしながらハイタッチをしていて、これも上下関係を重んじる日本では中々みられない面白いことだと思った。子どもとのコミュニケーションはそのやり方は文化によって違いうだろうが、教師としてとても大事なことだと思う。

4.2 自分自身についての変容

今回の GPSC では、向こうの先生方や大学生と交流する機会が何回かあった。その時に普段聞きなれない英語を、一生懸命集中して聞き、自分の思いが伝わるように手振りや身振り、時には絵などを用いてコミュニケーションを図った。そのようなコミュニケーションに対する姿勢というのは、外国人と接するときだけでなく、同じ言語を話す日本人に対しても必要なのではないかと思うようになった。伝えようとする姿勢や聞こうとする態度はこれからも大事にしていきたい。

4.3 グローバルマインドに関する変容

渡航する前のアメリカ人に対するイメージは、何でも思っていることをはっきり言って人見知りなんてしない、というようなイメージであった。しかし、実際に交流してみると、こちらを傷つけないように遠まわしにしてくれるようなこともあったし、人見知りする人も多くいた。このようにその国のもつ勝手なイメージというのは、行ってみると実は違ったということがアメリカだけではなく、他の国にもあることかもしれないと思った。また、英語を使ったコミュニケーションでは文法や発音が多少違っていても、理解しようとしてくれて、英語でのコミュニケーションがすごく楽しいことだと感じられた。今までは文法などの細かい間違いを恐れて英語を使うことを躊躇してしまいがちだった。もちろん正確さはとても大事なことで、指導する立場としては正しい英語を身につけるべきだが、コミュニケーションをとろうとする態度がとても重要なことだと強く感じた。

また、アメリカの食事は日本の食事と大きく違っていて、アメリカの食事を通して改めて日本の食事について考えるようになった。アメリカのご飯もおいしいが、日本のご飯が恋しくなり、和食のおいしさを改めて感じる事ができた。このように、アメリカの文化に触れることで日本の文化について改めて目を向けるということが多かったように思う。さらに、現地の人との交流の際には日本についての質問が多く、日本人としてもっと日本のことを知っておくべきだと感じた。このように、異文化に触れることで自国の文化についての考え方も変化した。この体験を通してアメリカだけでなく他の外国に対する興味が高まり、たくさんの異文化に触れてみたいと感じるようになった。

5 おわりに

今回の研修は、本当に充実したものであった。海外の学校で授業をしたり、見学をしたり、大学生や教員と交流したりと、非常に貴重な経験をさせていただいた。今回の貴重な体験は、将来の、特に外国語活動の指導のときに非常に役に立つものであると思う。

そのような経験となったのは、ご指導してくださった GPSC の諸先生方、お忙しい中サポートしてくださったアメリカの諸先生方のおかげである。アメリカの先生方のおもてなしに感動し、私も日本人としておもてなしの心を大事にしたいと思った。心より感謝申し上げます。

